

家庭教育力の強化を図る

## 家庭・地域・学校が連携するP T A活動を目指して

犬山市立城東小学校P T A

### 1 はじめに

本校は、愛知県北部にある犬山市に位置する、児童数 775 名、学級数 29 学級（特別支援学級 4 を含む）、P T A 会員数 620 の犬山市で最大の学校である。もともと古くからあった集落に加え、新しく造成された新興住宅地の影響もあり、900 名近い児童数に迫ったこともあったが、街の成熟とともに近年は減少傾向にある。



【運動場より校舎を望む】

### 2 研究への取組

#### (1) 研究のねらい

本校児童は、素直で明るい子が多い。しかし、共働きの増加などにより親子のふれあう時間が少なくなっていたり、地域において挨拶ができなかつたりするなど、生活習慣の面で、更に高めていきたい課題がいくつかある。また、校区内に児童福祉施設や母子生活支援施設があり、家庭生活に支援が必要な児童も在籍している。心身ともに健康な子どもたちの育成のためには、学校と家庭・地域の連携が不可欠である。そこで、本校P T Aでは、保護者としての自覚を高め、家庭の果たすべき役割を見つめ直し、子どもとのふれあいを深めることを目指して、家庭・地域・学校の連携と協力を深める活動を中心に研究に取り組み、家庭教育力を高めていきたい。

#### (2) P T Aの組織と主な活動

会長を中心とする役員会（会長 1、副会長 2、書記 2、会計 1）は、P T A 総会・委員総会を取り仕切り、各部会をまとめ、後任人事の選定に尽力する。

専門部会は新聞部＜前期・後期＞・研修部・校外指導部・厚生部に分かれている。P T A 新聞の発行に関わる新聞部、資源回収や校内の環境整備に尽力する厚生部、学習会・講習会や研修旅行の企画をする研修部とあるが、特に重要なのは校外指導部である。全校児童の三分の二以上が 1 時間以上の時間をかけて登校してくる。早い通学班は、8:30 の始業に対して、6:50 に集合場所を出発してくる。そこでP T Aの校外指導部が班の割り振りから班長・副班長の選定、交通立ち番の割り振りまで関

わり、児童の安全に尽力している。

### 3 実践活動の概要

#### (1) アンガーマネジメント

令和元年度は、家庭教育力の強化として「アンガーマネジメント」を中心に据えた。アンガーマネジメントファシリテーターの今井志保先生を講師に招き、自分の怒りに対する傾向を知り、怒りと向き合うことを学んだ。7月の学校保健委員会を皮切りに、9月の授業参観では3年生の児童と保護者が一堂に会して学んだ。10月の就学時健康診断の際には、入学予定の保護者に向けても同様の学ぶ機会を設けた。



【今井志保先生】

アンガーマネジメントの目的は、怒る必要のあることは上手に怒り、怒る必要のないことは怒らないようになることが大切で、決して怒らないということではないと学んで始まる。問題となる4つの怒り（強度が強い、持続性がある、頻度が高い、攻撃性がある）を、怒りが生まれるメカニズム（理想と現実のギャップ＝こうあるべき）を分析することで解決の手がかりを知った。それは、衝動のコントロール、思考のコントロール、行動のコントロールである。特に、怒りは長くても6秒しか続かず、6秒待つテクニックを知ることで、怒りの連鎖を断ち切っていると学習した。

#### (2) 地域とともに

##### ① 環境整備

###### ア 通学路草刈り

広大な校区の通学路をコミュニティの皆さんが中心になって年2回（6月・8月）草刈りをしていただいている。小学校のPTAのべ100名がともに汗を流す。本年度からは、中学校も加わり、地域の一大イベントになった。



【高く積み上がった草】

###### イ 校内環境整備

通学路の草刈りは刈払機を使用するため、児童の参加は募っていないが、校内の環境整備には多くの参加がある。100名近い親子・教員がともに汗を流し、夏休み後に備えて学校環境を整備する。

##### ② 挨拶運動

###### ア コミュニティ主催

毎月1回、校門前で実施される。「おあしす運動」の幟は常に校

門横に掲げてある。この時は多くの職員が校門で登校してくる児童を迎えている。1時間以上の通学時間をかけて歩いてきても児童はみんなとても元気である。肥満傾向の児童が少なく、体力が高い水準にあることもこのことが要因であろう。



【さわやかな挨拶】

イ 犬山警察署とのコラボレーション  
令和2年度から新たに、犬山警察署と一緒に挨拶運動をしている。「つみきおに」を示したパネルを展示し、不審者対策に向けての啓発活動も兼ねている。制服姿で来校していただいた警察官と保護者が一緒になって大きな声で挨拶している。



【青空に響く挨拶の声】

③ 見守り隊・子ども110番の家

高齢化に伴い、見守り隊を立ち上げた当時のメンバーが減少する傾向にあった。そこで、令和元年度に見守り隊緊急募集用紙を作成し、地区3250戸全てに配布した。賛同していただいた38名が新たに加わり、現在93名で活動している。「子ども110番の家」は219軒の登録がある（令和2年7月現在）。

④ 特徴ある行事

ア 探鳥会

自然豊かな校区をもつ本校には年3回の探鳥会が企画されている。親子で早朝に集まり、近くの中島池に野鳥の観察に出かける。校区内に東京大学大学院農学生命科学研究科付属演習林がある縁で、講師には技術職員の梁瀬桐子氏他1名を招聘している。低学年の児童にも分かりやすい説明で好評である。



【今、飛び立ったよ！】

イ 歩け歩け芋煮会

コミュニティ主催の行事ではあるが、コミュニティに参加していない地区も参加できる。隣接する城東中学校の生徒は、部活動終了後、多くの生徒がそのまま参加



【おいしいお餅と豚汁】



している。小学校としても調理室を開放し、前日から準備に協力している。当日は多くの職員も家族連れで参加し、会の盛り上がりに一役買っている。

#### ⑤ お話ポケット

当初は、PTA活動の一環としてスタートした。子どもが卒業しても継続して続けられる方が多く、今では独立した活動となっている。週2回、低学年への読み聞かせがメインの活動である。11月の終わりには「お話ポケットスペシャル」と題して、一大イベントが開催される。体育館にて半日日程で行われ、低高向けに二部構成で人形劇が演じられ、子どもたちも毎年楽しみにしている。



【むかしむかしあるところに】

#### (3) 保護者のための情報モラル教室

家庭教育力の強化を図るためには、近年増加しているインターネットを巡るトラブルに対応することが重要になってくる。本校でも講師にライズ株式会社スクールアシスタントの竹山千代美先生をお招きし、「話し合っていますか？家庭のルール～安全で安心なインターネット利用のために～」と題して、学校保健委員会を開催した。ゲーム機がインターネットにつながるということを知らずに買い与えている保護者が多かった。まず、ゲーム機に付いている「保護者による使用制限機能」の重要性を教えていただいた。次に、安易な情報発信の危険性を指摘する場面では、トラブルに巻き込まれるだけでなく、子どもが犯罪者にもなり得ることを知り、驚きの声が上がった。一見堅苦しいことではあるが、各家庭でよく話し合い、ルールを作ることが子どもを守ることにつながるということを学んだ。そして、何より大切なことは、親子のコミュニケーションであるということを知った。



【竹山千代美先生】

## 4 おわりに

新型コロナウイルス感染症への対応として、令和2年度は従来のPTA活動を行うことは困難な状況であった。中でも、外部と関わる活動は大きな制約を受けた。本実践の大部分は令和元年度の内容である。本年度は地域を挙げて取り組む「ふれあい運動会」の中止を始めとして、様々な活動の制約を受けた。それでも、常に新しい生活様式を念頭に、家庭教育力の強化に努めてきた。拙い実践ではあるが、学校が本来の姿を取り戻した時には、今年度蒔いた種が芽を出し、大きな美しい花を咲かせてくれるものと信じている。